

昭和63年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書

(灌漑排水コース)

平成元年3月

国際協力事業団
筑波国際農業研修センター

T.A.C.
JR
88-1

LIBRARY

序 文

本報告書は、国際協力事業団筑波国際農業研修センターが、実施している集団研修「灌漑排水コース」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として帰国研修員の所属機関および関係機関等を訪問し、当該国に於ける研修成果の評価、諸問題に係わる指導、技術セミナーの実施並びにニーズの調査等を行なうため、ブラジル及びドミニカ共和国の2ヵ国に派遣したフォローアップチームの報告である。

当該研修分野における各国の実状、帰国研修員の活動状況及び研修に係わる要望事項等について関係各位の一層のご理解を戴き、今後の研修実施の改善に資すれば幸甚である。

なお、本件実施に当り、多大なご協力を賜った外務省他関係各位に深甚なる謝意を表する次第である。

平成元年3月

国際協力事業団
筑波国際農業研修センター
所長 栄田 剛

JICA LIBRARY



1075924(9)

19586

国際協力事業団

19586

ブラジル



DAEE (サンパウロ州水利電力局) 訪問

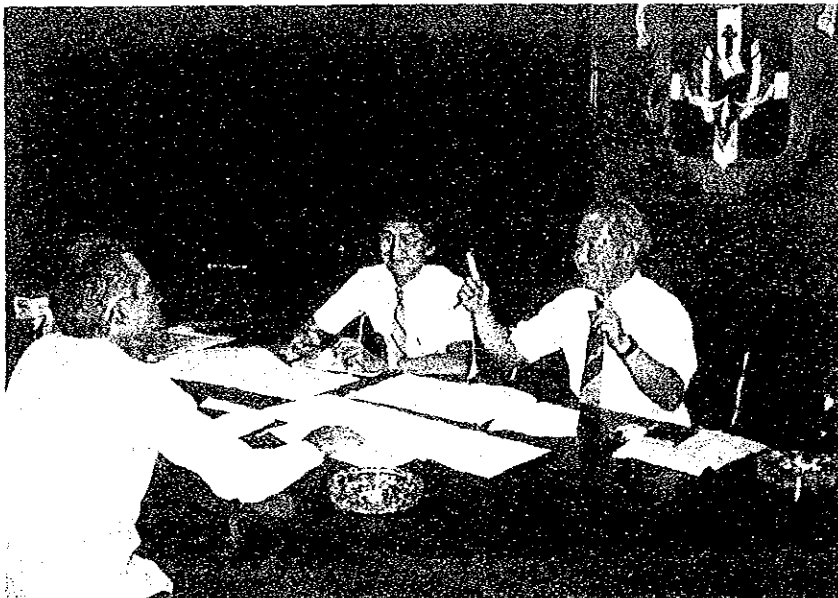


CTH (水利技術センター) 施設見学

ドミニカ共和国



ドミニカ共和国水利庁での面談



個別面接

目 次

I. 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 団員構成	1
3. 日程表	2
4. 主要面談者	4
II. フォローアップ調査内容	8
A. ブラジル	8
A-1 研修員所属先の状況	8
A-2 研修員所属先の日本での研修の意義と評価	8
A-3 技協窓口	9
A-4 研修員選考基準	9
A-5 研修コースのニーズの把握	9
A-6 当該分野の現状と問題点	10
A-7 アフターケア事業	10
A-8 ブラジルの経済及び農業開発計画	10
B. ドミニカ共和国	12
B-1 研修員所属先の状況	12
B-2 研修員所属先の日本での研修の意義と評価	12
B-3 研修員選考基準	13
B-4 研修担当窓口	13
B-5 研修のニーズと技術的な問題点	13
B-6 JICA 研修事業への要望	14
B-7 アフターケア事業	14
C. 研修員に対する質問表集計結果	15
C-1 現在の所属先と具体的仕事	15
C-2 研修コースに対する質問	19
C-3 フォローアップ活動に関する質問	22
C-4 帰国研修員の同窓会に関する質問	23
C-5 その他コメント	24

D. アフターケア事業について.....	24
D-1 灌漑関係の参考図書の送付.....	24
D-2 日本での再研修.....	24
D-3 資機材の供与.....	25
III. 技術セミナーの概要.....	26
1. 実施状況.....	26
2. 講義内容.....	26
3. セミナーの評価と成果.....	27
IV. 当該研修コース（カリキュラム等）改善への具体的提言.....	28
V. 添付資料.....	29
1. 当該コースの概要.....	29
2. Questionnaire.....	33
3. 研修候補者の募集選考状況.....	43
4. 報道内容.....	43
5. セミナー関係資料.....	44
6. サンパウロ同窓会概要.....	50
7. ドミニカ共和国同窓会概要.....	53
8. 持ち帰り資料一覧.....	54

I. 派遣チームの概要

1. 派遣目的

1. 帰国研修員に技術指導を行い、活動状況を把握する。
2. 当該国の本分野における、一般的事務及び技術水準を調査し、研修に対するニーズを把握する。
3. 帰国研修員の所属機関、関係機関の概要調査を行う。
4. フォローアップ事業に対するニーズを把握する。
5. 帰国研修員の現場、JICA プロジェクトサイトを視察することによって現場における技術水準を把握する。

2. 団員構成

金山 史朗	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター 研修室長代理（灌漑排水コース）
美馬 巨人	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター 研修室（灌漑排水コース）
大沢 英生	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター 研修室（灌漑排水コース）

3. 日程表

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	1月23日	月	東京 → (RG833)	移 動
2	1月24日	火	サンパウロ着 JICA 事務所訪問	1. 日程打合せ 2. セミナー打合せ 3. クェスチョニアの回収
3	1月25日	水	ボツカツ大学視察	1. 灌漑排水関係実験室の見学 2. 日本人移住地の視察
4	1月26日	木	DAEE 表敬訪問 CTH 表敬訪問	1. 帰国研修員の上司, 及び帰国研修員との面談 1. 帰国研修員の上司及び帰国研修員との面談 2. 実験室の見学
5	1月27日	金	在サンパウロ総領事館表敬訪問 セミナー	1. 日本の灌漑排水事業の紹介 ①日本の稲作及び魚道 ②ファブリタム ③リモートセンシング 2. 質疑応答 3. 調査団主催レセプション
6	1月28日	土		1. 帰国研修員との面談 2. 報告書作成
7	1月29日	日	サンパウロ→ブラジリア (TR564)	1. 報告書作成
8	1月30日	月	JICA 事務所訪問 在ブラジリア大使館表敬訪問 ブラジル灌漑局表敬訪問	1. 日程打合せ 2. クェスチョニアの回収 1. ブラジルの灌漑排水事業の事情聴取 2. 帰国研修員との面談
9	1月31日	火	ブラジル野菜研究計画プロジェクト視察 ブラジル農業研究協力計画プロジェクト視察	1. プロジェクトの概要説明聴取 2. プロジェクトの施設, 圃場視察 1. プロジェクトの圃場視察 2. 関連資料購入
10	2月1日	水	ジャイーバプロジェクト視察 (セスナ機にて移動) ブラジリア →	1. ジャイーバプロジェクト (CODEVASF) の概要説明聴取 2. 取水口, ポンプ場, 乾線水路, 支線水路, 圃場等プロジェクト視察
11	2月2日	木	→ サントドミンゴ (VP033, VA943, VA970) JICA 事務所訪問	1. 日程打合せ 2. クェスチョニア回収

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
			在ドミニカ共和国大使館表敬訪問	
			ドミニカ共和国水利庁表敬訪問	1. ドミニカ共和国の灌漑排水事情の事情聴取 2. 研修員の選択基準, 帰国研修員の評価について事情聴取
12	2月3日	金	ドミニカ共和国水利庁訪問	1. 帰国研修員との面談 ・灌漑排水コース帰国研修員5名, ・農地水資源コース帰国研修員2名, ・カウンターパート研修帰国研修員5名の合計 12名の帰国研修員に個別面接を実施 2. 調査団主催レセプション
13	2月4日	土	ドミニカ胡椒開発計画プロジェクト視察 エルボン灌漑工事視察	1. ドミニカ共和国立カカオ試験場訪問 2. 胡椒開発計画プロジェクト圃場視察 1. 工事の概要説明聴取 2. 乾線水路, ポンプ場, ひ門等工事現場視察
14	2月5日	日		1. 調査団内打合せ 2. 報告書作成
15	2月6日	月	サントドミンゴ→ニューヨーク (AA588)	1. 報告書作成
16	2月7日	火	ニューヨーク → (JL005)	
17	2月8日	水	————→ 東京着	

4. 主要面談者

(1) 帰国研修員

ア. ブラジル

No	Name	Year	Organization	Address	Meeting
1.	Souji Goji	1977	Departamento de Aguas e Energia Eletrica (DAEE)	Rio Preto	○
2.	Emilio Sakai	1978	Irrigation Campinas Institute	Sao Paulo	○
3.	Paulo Shimada	1980	Sao Paulo State University (UNESP)	Sao Paulo	×
4.	Vincente Manzione Neto	1982	DAEE	Sao Paulo	×
5.	Paulico K. Kadekaru	1983	Cooperative Agricola de Cotia-Cooperative Centra	Sao Paulo	×
6.	Sebastiano Vainer Bosquilia	1984	DAEE	Sao Paulo	○
7.	Carlos Wermelinger da Silva	1985	State Rural Development Agency	Belo Horizonte	×
8.	Nanci Tiekko Soma	1986	DAEE	Brasilia	○
9.	Odilon Gontijo de Andrade	1986	Computer Company	100 km from Sao P.	○
10	Luis Carlos Miya	1987	DAEE	Sao Paulo	○
11	Henriete Macedo	1987	DAEE	Sao Paulo	○
12	Joao Carlos de Freitas Silva	1988	DAEE	Sao Paulo	○

(注1) 上記表の Meeting 欄の○印が面談できた研修員, ×印が面談できなかった研修員

(注2) No. 11 と No. 12 の研修員は水管理コース

イ. ドミニカ共和国

No	Name	Year	Organization	Address	Meeting
1.	Marcos A. Devers	1977		Puerto Rico	×
2.	Sanchez Ortiz Rafael Antonio	1982	DEPROICO CXA (Private Company)	Santo Domingo	○
3.	Luis E. Rosado C.	1983	Instituto Nacional de Recursos Hidraulicos	Calle Edelmira	○
4.	Silvio Radhames Lopez Toribio	1984	INDRHI	Santo Domingo	○
5.	Miguelina Brugal Ayra	1985	INDRHI	Santo Domingo	○
6.	Guillermo A. Gomez Michel	1986	Private Company	Santo Domingo	○
7.	Francis Dominguez Acosta	1987	INDRHI	Santo Domingo	○
8.	Jose Francisco Febrillet H.	1981 C. P.	INDRHI	Santo Domingo	○
9.	Jose Daniel Pena Geraldino	1982 C. P.	INDRHI	Santo Domingo	○
10	Reyito Abrahawson	1983 *	INDRHI	Santo Domingo	○
11	Gilberto Reynoso Sanchez	1985 C. P.	INDRHI	Santo Domingo	○
12	Orland Bautista Anil Paulino	1985 *	INDRHI	Santo Domingo	○
13	Jose Emilio Rodriguez Lopez	1988 C. P.	INDRHI	Santo Domingo	○
14	Carlos Rainasch Diaz Patrone	1988 C. P.	INDRHI	Santo Domingo	○

(注) Year の欄の C. P. はカウンターパート研修
* は農地水資源コース (Agricultural Land and Water Resorces Development course.)

(2) 主要面談者(帰国研修員を除く)

ア. ブラジル

番号	氏名	所	属
1.	丸山俊二	在サンパウロ日本国総領事館	総領事
2.	南野 肇	"	領事
3.	福田豊治	在ブラジル日本国大使館	書記官
4.	北村 孝	JICA サンパウロ事務所	所長
5.	土生 幹夫	"	農業情報室長
6.	佐々木 弘一	"	職員
7.	富田アルベルト	サンパウロ帰国研修員同窓会	会長
8.	立花 敏市	"	副会長
9.	仁井山 進	"	技術部長
10.	Fulio Nakagawa	ボツカツ大学教授	
11.	Minoru Sakate	"	
12.	藤本 堯夫	ボツカツ大学研究員	
13.	関屋 龍夫	ボツカツ日伯文化教会理事	
14.	日野 光男	移住者開拓地 農場主	
15.	Paulo Bererril Junior	DAEE 局長	
16.	Dirceu Telles	DAEE 部長	
17.	Giorgio Brighetti	CTH 部長	
18.	Kokei Uehara	USP 教授	
19.	Kikuo Tamada	CTH 部長	
20.	鈴木 昭雄	JICA ブラジル事務所	所長
21.	本郷 豊	"	職員
22.	村上 正博	"	"
23.	Antonio Jose Simoes	ブラジル灌漑局業務部長	
24.	田崎 正光	ブラジル野菜研究プロジェクト	専門家
25.	畑中 正夫	"	調整員
26.	Paulo Cesar R. Fontes	ブラジル国立野菜研究所	副所長
27.	宮沢 教雄	ブラジル農業研究協力計画プロジェクト	専門家
28.	Jose Carlos Guidolin	CODEVASF・JAIBA プロジェクトコーディネータ	
29.	Richardo Villela de Souza	CAMPO 社 技術部長	

イ. ドミニカ共和国

番号	氏名	所	属
1.	倉田 亮一	在ドミニカ共和国日本国大使館	参事官
2.	中島 久宜	〃	書記官
3.	大沢 尚正	JICA ドミニカ共和国事務所	所長
4.	岸 忠士	〃	職員
5.	島崎 マリ	〃	〃
6.	小笠原 昭	JICA 派遣ドミニカ共和国水利庁所属	専門家
7.	Juan Pichirilo	ドミニカ共和国帰国研修員同窓会	会長
8.	Raymundo Roig Mercedes	INDRHI (水利庁)	長官
9.	Jesus Maria Pichardo	〃	灌漑部長
10.	Nelson Orsini Morla	〃	灌漑排水課長
11.	石塚 幸寿	ドミニカ胡椒開発計画プロジェクト	調整員
12.	馬越 栄	〃	専門家
13.	Juana Adalgisa Ramirez	国立カカオ試験場長	
14.	荒井 博	エルポソ灌漑工事	
15.	河原 美佐雄	〃	

II. フォローアップチーム調査内容

A. ブラジル

A-1. 研修員所属先の状況

1) DAEE (サンパウロ州 水利、エネルギー局)

サンパウロ州の電力と水資源(主として農業用水と工業用水)の開発と供給と環境問題を担当しており、現在4,000名の職員がおりそのうち400名が土木工学系の技術者と言うことである。

当灌漑排水コースの場合、近年はほとんどの研修員がDAEEからの派遣である。

2) CTH (水利技術センター)

この組織は、DAEEの一機関であるがサンパウロ大学内に大規模で近代的な水理施設を持ち、民間の基金を受けて企業からの委託研究や調査も実施している。

現在、350名の職員がおり100名の研究員(大卒)が活動している。大学の一般講義を持たず、修士、博士研究や特別な分野の講義を実施し短期の研修コースも実施している。

活動は大きく次の3分野にわかれる。

1. 水理(ダム、河川工学)

2. 水文(降雨、流出) レーダー雨量計 3サイト(計画中1含、カナダ援助)

1,200点の気象観測サイトと河川水位測定

3. 水理工学(ポンプ、ゲート、タービン等)

現在、灌漑セクションはないがその必要性を認めつつあり灌漑コースOBのミヤ(1987)他2名が中心となって活動している。

海外への技術援助としては、アルジェリア、シリア、ウルグアイ、アンゴラ等へ研究協力をしている。

A-2. 研修員所属先の日本での研修の意義と評価。

1) 研修のレベルについてはブラジルの現状からみて低いものもあり、研修レベルについてはネガティブな意見があるが、研修全般の評価としては大変役に立っているようである。

2) 研修の個々の評価については帰国研修員のすべてが、灌漑関係の仕事についているわけではないので評価しにくいだが、研修で得た知識の応用という面からも仕事や現場によく適応させており研修の効果がでていると思う。

- 3) DAEE 職員にとって JICA 研修は最大の研修プログラムであり、重要な位置付けにある。

A-3. 技協窓口

- 1) 外交ルートとしては、外務省に研修課があり担当者1名で事務処理をしている。連邦政府、外務省の権限は強いが個々の研修に関しては担当者が1人と言うこともあり調整能力は十分機能していない。
- 2) 実務上は、サンパウロに政治、経済の中心が集中しており、また技術者の多くも集まっていることから、サンパウロ事務所等から関係機関に送付する GI 等が研修員の人選等には機能しているようである。
- 3) GI は 2 ヶ月前までであれば十分処理できるが中には 2, 3 週間前の場合もあり伯側からクレームのでる場合がある。

A-4. 研修員選考基準

- 1) 灌漑関係の研修のほとんどが DAEE から出しており実質的研修候補者の選抜も DAEE がおこなっている。これは、サンパウロ州が政治的に力を持っていることと多くの技術者を抱えていることによる。(DAEE 内に 400 名の土木系技術者がおり、その他州内の関係機関を含めると 700 名になる。)
- 2) DAEE 内での研修員の選抜には、英語の試験を実施しているとのことである。
- 3) 工学系の研修には、サンパウロ大学の IPT (技術研究センター) からの研修員が多いが、IPT には JICA コミッティーを教授 (部長クラス) 5 人で構成しており研修員の人選はその合議で決定している。

A-5. 研修コースのニーズの把握

- 1) ブラジル全体とサンパウロ州とでは格差が大きく一概に全ブラジルを語れないが、サンパウロ州の技術レベルは先進国と同レベルであり、多くの研修員が JICA 研修のレベルの低さを指摘している。もっとも彼らも JICA の研修が他の途上国との合同研修であることをよく理解しておりレベルの差は種々あるとしても研修全体としての評価は非常に高いものである。
- 2) 研修の直接の目的ではないが、日本の行政組織や日本人の行動様式は興味のある点であり、これらが理解できる JICA の研修は大きな魅力となっている。
- 3) 個人的な意見としては、個別研修の方が個人の関心に沿った研修が可能であり有効であるとの意見もあった。

A-6. 当該分野の現状と問題点

- 1) ブラジル全体を見れば発展途上の地域も多いがサンパウロ州などを見れば技術・経済すべての面で先進国のレベルである。対外援助も旧ポルトガル宗主国を中心に行なっている。サンパウロ州は、全ブラジルのGNPの75%を生産すると言われ政治経済の実験を握っている。
- 2) 研修員の多くから聞かれる問題点は、技術的問題点よりも政治的な問題点である。政治問題としては一概には言えないが政策が安定せず流動的なこと、累積債務からくる経済的な問題と慢性的インフレ、農産物価格の不安定、財政的問題とそれからくる行政改革と公務員の整理、給料の問題等であり、彼らの職場でも規格立案した計画もそれ自体評価されても実施されない場合がほとんどと言うことである。また豊かな国ではあるが、ちょっとした機材や事業費が困難で彼らが仕事を実施する上で様々な困難となっている。
特に、技術系職員にとってはこれらは大きな問題となっているようである。

A-7. アフターケア事業

- 1) 研修員同窓会の活動（サンパウロ支部）
 - i. 会員数 861名（1988、3月現在）
 - ii. 主な活動
 1. 総会
 2. JICA 研修員に対するオリエンテーション
 3. セミナー開催（環境問題、テレコミュニケーション）
 4. 研修員名簿のデータベース整理
 5. 専門家の後方支援
 6. プリテンの発行
 7. JICA 情報誌の配布
 - iii. 要望
 1. 活動への補助
 2. JICA 情報の十分な配給
 3. 研修員データベースの整理のためのパーソナルコンピューターの供与

A-8. ブラジルの経済及び農業開発計画

- 1) 主要経済問題
経済成長の確保と東北伯地域等における貧困の撲滅

慢性的インフレからの脱却（公共赤字削減，非インテクセーション化）

累積債務問題の解決

（1988年のインフレ率が1,000%にも及んだことから，ブラジル政府は1989年1月15日に，行政改革，物価凍結，デノミネーション等を内容とする新経済政策を発表した。）

2) 経済開発計画

1986～1989年を対象とした「新共和国第1次国家開発計画」によれば，経済成長の維持を最優先課題としつつ，貧困撲滅のための特別投資，民間部門の主導的役割が強調されている。具体的な目標は「4か年目標計画」によって定められており，1986～1989年の間の年間平均成長率7%，1989年までの1人当たり国民所得の20%増加（2,000ドルに達する），660万の新たな雇用の創出，特に東北伯地域における特別措置並びに灌漑開発及び農地改革により同地域で170万の雇用を創出することがあげられている。

3) 国家レベルの農業開発計画

ブラジルにおける今後の農業開発の可能性についてみると，農務省の推定によれば，直ちに利用可能な可耕地が8,000万ヘクタールあるほか，一部の制約はあるものの耕作可能な土地が4億7,000万ヘクタール残されていることから，農業開発の潜在的可能性は計り知れない程大きく，また，現状では低いレベルにとどまっている土地生産性が今後向上する可能性も非常に大きい。

このため，ブラジル政府は，従来から，国家レベルでの各種農業開発計画に基づき，開発を進めており，現政権において開始されたプログラムとしては，「国家灌漑計画（PRONI）」及び「東北伯灌漑計画（PROINE）」があげられる。これらは，二つの計画に分かれて実施されていたが，1988年末に一本化され，全体がPRONIに統合されている。

①国家灌漑計画（PRONI）

ブラジルの東北地域以外の全国（北部，中西部，東南部，南部地域）を対象として，主に民間のイニシアティブを活用しつつ，1986～1990年の間に約200万ヘクタールを新たに灌漑することを目標に，政府は公共灌漑排水路，電力等のインフラ整備，融資制度，技術支援の面で役割を果たすこととしている。

②東北伯灌漑計画（PROINE）

遅れている東北伯地域における農業開発を促進するため，1986～1990年の間に約100万ヘクタールの灌漑を整備し，地域内での食料自給，農業生産性の向上，地域における雇用の創出等を実現することとしており，本計画の場合は，70%を公共部門が実施し，残り30%を民間部門のイニシアティブを活用する計画となっている。

表20. ブラジルの灌漑可能面積

区分	高地	低湿地	計(百万ha)	灌漑実施面積(左に対する割合)
北部	-	20	20	5千ha (0%)
東北部	5	1	6	400 (7%)
東南部	8	2	10	500 (5%)
南部	3	2	5	1,000 (20%)
中西部	10	1	11	300 (3%)
計	26	26	52	2,205 (4%)

出所：PRONI

なお、以上のほか、ここ10数年の間に、ブラジルにおける有望な農業フロンティアとして注目を集めているセラード地域の農業開発については、日伯両国の協力プロジェクトとして「日伯セラード農業開発協力事業 (PRODECER)」が実施されており、1979～1982年に実施された第一段階試験的事業 (PRODECER I) においては、ミナスジェライス州内の3か所、合計約6万ヘクタールが開発され、1985～1989年の予定で実施中の拡大計画 (PRODECER II) においてはミナスジェライス、ゴヤス、南マットグロッソ、マットグロッソ及びバイアの各州で合計13か所、約18万ヘクタール(土地購入総面積)の開発が進められている。

B. ドミニカ共和国

B-1. 研修員所属先の状況

1) INDRI (水利庁)

河川管理、灌漑、農業開発、電力開発(水力)を担当している。日本の建設省河川局、農水省構改局及び水公団を合わせた組織と言える。現在、職員は4,000名でその内約150人が灌漑関係の技術者である。

当灌漑排水コースの研修員はすべてINDRIの出身である。

B-2. 研修員所属先の日本での研修の意義と評価

- 1) 日本にはおもに水田灌漑に関する技術援助を中心に協力を求めている。米作技術に関しては20年来台湾の技術協力を得ており成果が上がっている。
- 2) 日本での研修は様々な点で役に立っていると言える。特に、カウンターパート研修を受けたものの多くは重要な地位についている。
- 3) また、INDRIでは長期研修を受けたものは現場で灌漑プロジェクトを担当するようにしており成果が上がっている。一例として、ミゲリーナ(1986年、IDコース)は、日本の協力プロジェクトの一つのネイバの塩類土壌改良プロジェクトを担当してお

り、日本の調査団との共同作業で、コミュニケーションもよく研修の成果を十分に発揮している。

- 4) ドミニカの場合英語力の問題があり、スペイン語での研修あるいは第3国研修のニーズが高い。

B-3. 研修員選考基準

- 1) INDRIは地方に23の灌漑区を持っており主として地方の灌漑プロジェクト担当者を選抜している。また、帰国後はすぐにプロジェクトを担当させるようにしており研修の効果を発揮せしめるようにしている。
- 2) 研修員の選択には英語力の問題があり人選が難しい場合がある。しかし、英語力の試験は特に実施していない。(JICA事務所で簡単な英語チェックをしているのみ)

B-4. 研修担当窓口

- 1) 研修の窓口としては大統領府技術庁があり研修担当官が1名いる。しかし、実際上の調整能力は十分機能していないようである。
- 2) 外務省は次官と経済局が技協部門の担当であるが、現在JICAの担当者が決まっていないことから直接の事務処理はしていない。しかし、日本との関係は非常によく、日本からの協力を期待するところが大きい。

B-5. 研修のニーズと技術的な問題点

- 1) INDRIは150人の灌漑関係の技術者がいるが、技術者の絶対数が不足しており末端プロジェクト施設の維持管理を十分行なうことができない。
- 2) 農民の水管理に関する知識の低さ等に大きな問題がある。現在ある農民組織のリーダークラスに日本の農業の実際を見せて彼らの意識改革を行なう研修を実現させたい。また、農業普及センターあるいは灌漑技術センター的な組織の設立も日本の協力が得られればと言う意見がある。
- 3) 技術的諸問題としては以下の問題があげられる。
 - i. 水資源の開発が十分でなく、水の供給とその灌漑効率が非常に悪い。(20%以下)
 - ii. 特に古い灌漑システムには漏水等の問題が多い。また、排水路が不備のため土地利用が不安定で、生産性も悪く、畑地等では塩害による被害も深刻である。
- 4) 実施・運営上の問題点
 - i. 様々な機材が不足している。特に、交通・輸送の手段としての車両の不足が大きな阻害要因となっている。INDRIが保有する車両も十分でなく職員が担当するプロ

- プロジェクトへの移動とそれらの維持管理の作業等の実施にも困難をきたしている。
- ii. 農業の基盤整理を進めていく上で基本的に資金が不足している。また、完成した事業の維持管理のための資金と人材も足りない。

B-6. JICA 研修事業への要望

- 1) ドミニカは、水資源の開発やダム総合的管理が遅れており水資源を無駄に消費している。ダムの効率的な管理や洪水対策の研修あるいは、地震も皆無ではないことから構造物の地震対策等の研修も付加してほしい。
- 2) 塩類集積土壌の改良プロジェクトが西部の小雨量地帯で進められている。技術的な問題よりも対象面積が大きく投資コストが最大の問題である。
- 3) 研修員にかかる機材の援助を積極的に進めてほしい。
- 4) 水利施設の維持管理に関する研修を希望する。また、水管理に関する研修として土地改良区等の現場で2週間程度の研修を希望する。
- 5) 派遣前のオリエンテーションをやってほしい。(日本語等)
(JICA 事務所としてはやりたいが、受け入れ決定後の時間が短く十分対応できないとのことであった。)
- 6) 技術者研修も重要であるが農民組織のリーダークラスの研修を日本でやれば日本の農業の現状がよくわかり農家の意識改革、農業普及に有意義な研修となろう。
- 7) スペイン語での研修か第三国研修が適している。(英語力の問題)
- 8) エバリュエーションテストは研修の一つの励みになり研修の整理と自己評価ができるので是非続けてほしい。
また、水理実験、コンクリート実験等は役に立っており、こういった実験やフィールドでの実習を増やしてほしい。
- 9) JICA の研修後民間に移った研修員の原因は給与の問題が大きく、なんらかの研修を受けたことによる給与面、待遇面での向上があれば良いのではとの意見があった。
- 10) 灌漑技術研修センターや農業普及センター等への支援を希望する。
- 11) 帰国研修員センターをつくり、参考図書を整備等をしてほしい。

B-7. アフターケア事業

1) 研修員同窓会

i. 設立 1982年10月25日

ii. 会員数 200名 (JICA 研修員は180名)

会員は JICA 研修員が中心であるがその他文部省国費留学生等も含

まれている。

iii. 主な活動

1. 総会
2. 日本ドミニカ文化週間の催し
(歌舞伎の上演、映画大会、生け花等)
3. プリテンの発行(3ヵ月に1回)
4. 名簿の整理
5. JICA 研修予定者にオリエンテーション

iv. その他

1. 国土が小さいので研修員の集りはよい。
2. 同窓会会長 Mr. Pichirilo(1983)の事務所に秘書をおき活動している。
3. ファーミングジャパン 100部, KENSHUIN 200部, LOOK-JAPAN 200部を毎年送付してほしい。

C. 研修員に対する質問表集計結果

(ブラジル: 4名 ドミニカ: 4名 ドミニカ: 6名 (カウンターパート研修および農地水資源))

C-1. 現在の所属先と具体的仕事

1-1, 2 所属先の業務と本人の具体的仕事

(ブラジル)

(1) Nanci Tiekko Soma (1986, I & D コース)

所属先: サンパウロ州水利電力局(DAEE)よりブラジル連邦政府、国家灌漑計画に出向中

業務: 国家灌漑計画のもとで、農業開発プロジェクトを進め、農業生産の増加と雇用の創出を計っている。

本人の仕事内容: 東北ブラジル地方の農業開発計画に従事しており、おもにプロジェクトの評価を行なっている。

(2) Odilon Gontijo de Andrade (1986, I & D コース)

所属先: 建築材料工場(民間)

業務: 中規模の工場でコンピュータシステムの開発の仕事をしている。

(3) Luis Carlos Miya (1987, I & D コース)

所属先: DAEE 内の水理研究センター(CTH) 灌漑セクション

業務: DAEE の研究機関であるが、サンパウロ大学内にあり、水理、水利施設、水文に関する研究開発を行なっている。

本人の仕事内容: 灌漑セクションに所属し、灌漑用水路の設計テストに従事している。

(4) Joao Carlos de Freicas Silva (1988 W & M コース)

所属先：DAEE

業務：サンパウロ州の水資源計画の作成と流域開発を行なっている。具体的には
灌漑計画

(ドミニカ)

(1) Luis E Rosado, C (1983 I & D コース)

所属先：水利庁

業務：灌漑用水と電力のための水資源管理を行なっている。実際には水管理と作物生産の改善のための農業普及の仕事に従事している。

(2) Silvio Radhames Lopez Toribio (1984. I & D コース)

所属先：水利庁

業務：ダムと灌漑用水の管理および水利施設の建設がおもな業務であるが、実際の仕事は、水文・気象データの管理、水路の設計、灌漑用水、計画、作物計画を担当している。

(3) Miguelina Brugal Ayra (1985. I & D コース)

所属先：水利庁

業務：水資源の管理を行っているが、実際の仕事は塩害土壌の改良プロジェクトを担当している。

(4) Francis Dominguez Acosca (1987. I & D コース)

所属先：水利庁

業務：水資源の管理を行っているが実際の仕事は灌漑用水の水管理と農民組織化、灌漑施設の改善を担当している。

1-3 仕事をする上での障害について

(不足するものとして)		ブラジル	ドミニカ		全 体
			灌漑コース	カウンターパート 研修(農地水資源他)	
①	技術者の不足	1	3	3	7
②	機材の不足	1	1	3	5
③	資金の不足	3	3	2	8
④	管理・監督の欠如			1	1
⑤	外国人専門家の不足			2	2
⑥	将来を予測する能力の不足		1		1
⑦	技術・専門書の不足	1	1	1	3
⑧	研究施設の不足		2	1	3
⑨	水資源の不足		1	1	2
⑩	計画・設計基準の欠如				
⑪	交通・輸送施設の未整備	1	2	4	7
⑫	関係セクターに対する政府政策の不十分	1	1		2
⑬	他				

(種々の制約条件)		ブラジル	ドミニカ		全 体
			灌漑コース	カウンターパート 研修(農地水資源他)	
①	経済状況	2	1	2	5
②	政治状況	3		1	4
③	外国の多大な影響				
④	エネルギー危機		1	1	2
⑤	管理運営が不十分	1	4	1	6
⑥	機材・施設の維持管理が不十分		1	3	4
⑦	他				

1-4 灌漑排水分野における問題点について

(1-4-a) 国家レベルの問題

(ブラジル)

- ① ブラジルは大国であり大資源国であるが、灌漑排水に関してはそれほど歴史は長
くなく、十分な経験をもっていない。
- ② 社会経済条件が問題である。
(インフレーション・農産物価格の不安定 etc)
- ③ 灌漑排水分野への民間資本の導入が十分行われていない。
- ④ 研究開発普及事業、インフラストラクチャー（道路、電気、市場）の未整備

(ドミニカ)

- ① 農民の灌漑に対する基本的知識不足の問題とこのための水管理の悪さ。
- ② 水路等の灌漑施設が未整理であり灌漑効率が悪い。
- ③ 技術者、資機材、資金不足。

(1-4-b) オフィス・レベルの問題点

(ブラジル)

- ① 灌漑プロジェクトはコストがかかるが、それを実施するだけの十分な予算がな
い。
- ② 水資源計画の策定が十分でなく、それらの各セクター間の調整も十分行われてい
ない。
- ③ 所属先である水理研究所 (CTH) には、灌漑セクションがなく、灌漑の重要性の
認識が弱い。

(ドミニカ)

- ① 組織の技術力の問題と、交通・輸送手段の不足。
- ② 圃場レベルでの管理技術の悪さ。
- ③ 技術者と資機材の不足。
- ④ 水資源をはじめ、さまざまな資源の不足。
- ⑤ 外国人専門家による資金の調達・管理が有効と思われる。
- ⑥ 水源から末端までを考えた計画の欠如。

(1-4-c) 個人レベルの問題点

(ブラジル)

- ① 人材、交通手段、資機材の不足。

(ドミニカ)

- ① 低給料による人材の流出。

1-5 さまざまな問題点に対する対策

(ブラジル)

- ① 予算の不足に対してはプロジェクトの優先順位を決めるための経済評価を行う。
- ② 水資源調整機関を創成中であり技術的、法的、行政面から水資源の需要予測、利用可能性、保護管理を行なう予定である。

(ドミニカ)

- ① 人材不足に対しては、公務員の給料を上げて優秀な技術力を得られるよう努力している。また、交通手段の確保にも努力している。
- ② 灌漑排水に関する農民へのトレーニングを実施している。
(農民と直接仕事をして彼らの水管理の知識の向上を計っている)

C-2 研修のコースに対する質問

2-1 研修プログラムで初期の目的を達成できたか？

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ ○カウンターパート ○農地水資源	全体
①	完全に達成出来た			1	1
②	かなり "	2	2	3	7
③	ある程度 "	2	2	1	5
④	あまり達成出来なかった				
⑤	まったく "				

コメント

(ブラジル)

- ① 日本とブラジルのシステムの比較が出来た。
- ② 灌漑排水の授業というよりも水利施設工学的な研修内容であった。
- ③ 多くの課題を短い期間で研修するので、研修のメリットや質を落とすことになる。

(ドミニカ)

- ① 灌漑排水の多くのことが学べた。
- ② 自分の英語力の問題が大きかった。

2-2 研修で得られた知識の応用度

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ カウンターパート 農地水資源コース	全 体
①	すべて応用している	1			1
②	かなり //		1	3	4
③	ある程度 //	1	1	2	4
④	少しは //	2	2		4
⑤	まったく応用していない				

コメント

(ブラジル)

- ① コンピューターに関する知識は利用している。
- ② 現在は研究所の仕事をしているので、あまり役立っていないが、必要な授業である。
- ③ 将来的には利用可能な知識である。

(ドミニカ)

- ① 日本のレベルが高すぎるためあまり現場に適応出来ない。
- ② 現在の仕事に多いに関係がある。
- ③ 現在は灌漑排水の仕事に直接担当していない。

2-3 個人の資質改善に役立ったか？

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ カウンターパート 農地水資源コース	全 体
①	大変役立った	2	4	3	9
②	ある程度	2		2	4
③	全然役立たなかった				

どのように役立ったか？

	ブラジル	ドミニカ	ドミニカ カウンターパート 農地水資源コース	全 体
① 仕事の状況の改良			1	1
② 上位の仕事が得られた。				
③ 責任感が出来た	1	3	4	8
④ 専門職として認められた	1	3	3	7
⑤ 給料面で向上				
⑥ 国際的関係が出来た	2	3	5	10
⑦ 将来の予測が出来る	3	3	2	8
⑧ その他	1	2		3

コメント

(ブラジル)

- ① 研修は重要であり、よい仕事を得られた。また、国際的な関係も出来、将来的にも高いポジションが得られると思う。
- ② 日本人について10ヶ月間の間によく勉強出来た。

2-4 もっとも役に立った講義

(ブラジル)

- ① 灌漑計画
- ② 日本の農業
- ③ コンピューター
- ④ 灌漑のシステム
- ⑤ 実験・実習

(ドミニカ)

- ① 土地改良事業
- ② 水管理
- ③ ポンプ工学

2-5 追加すべき授業

(ブラジル)

- ① 畑地灌漑

- ② 水管理 (末端現場での)
- ③ ドリップ・灌漑手法
- ④ 水質 (農業用水)
- ⑤ 農民組織
- ⑥ 社会・経済評価

(ドミニカ)

- ① 農民組織, (土地改良区, 農業協同組合)
- ② 灌漑技術の現場研修

2-6 灌漑排水コース改善の提案

(ブラジル)

- ① 研修員のレベルやバックグラントを均一にすべき
- ② 農民といっしょに仕事をする機会をなるべく多くして, 彼らから現場の知識を得られるようにしてほしい。

(ドミニカ)

- ① フィールドでの実習をふやす
- ② 土地改良区等で2週間程度の実習を行ない実際の灌漑技術が習得出来るようにすべき。

C-3 フォローアップ活動に関する質問

3-1 現在どのようなフォローアップを受けているか?

i 図書・ニュースレター・情報等

	ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	
① つくばニュース	2	1		3
② 研修員	3	3	5	11
③ ファーミング・ジャパン	3	4	5	12
④ 参考図書の送付	1	1	1	3

ii その他

PHPを送付してもらっている。

3-2 どのようなフォローアップ活動を望むか？

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
3-2-a	図書を送付を希望	3	3	2	8/14

- ① 新技術に関する情報を送ってほしい。
- ② 灌漑に関するあらゆる情報を送ってほしい。
- ③ 灌漑排水コースで新たに増えた教材等を送付してほしい。
- ④ 地表灌漑に関する参考資料を送ってほしい。
- ⑤ 帰国研修員の研修員センターを作り図書の整備をしてほしい。

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
3-2-b	技術的アドバイス・相談の希望	1	1	1	3/14

- ① JICA 事務所を通してコンピューターで情報を交換したい。

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
3-2-c	日本での再研修の希望	1	2	3	6/14

- ① 技術レベルを維持するために再研修が必要
- ② 水管理技術に関する研修をしたい。(畑地の水管理等も含む)
- ③ 短期間の研修(テーマをしぼった。㊦小ダムに関するもの等)を希望

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
3-2-d	その他(機材, 専門家派遣他)	1	0	2	3/14

- ① ねじ回し, チャジャー類から車両まであらゆる機材が不足している。
- ② プラニメーター, 距離計等
- ③ 衛生通信用コンピューター

C-4 帰国研修員の同窓会に関する質問

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
4-1	同窓会があるか?(知っているか)	4	4	5	13/14

4-2 同窓会はどのような活動をしているか？

(ブラジル・サンパウロ)

- ① 種々の活動（オリエンテーション、セミナー等）

(ドミニカ)

- ① ドミニカ・日本文化週間（親善パーティ、日本映画大会 etc）
 ② 年数回のミーティング（帰国研修員、専門家、協力隊等）
 ③ 年次総会

		ブラジル	ドミニカ	ドミニカ 他コース	全体
4-3	他の研修員と連絡をとっているか？ yes	3	2	3	8/14

- ① 手紙等で海外の研修員と連絡している 5人
 ② 国内の研修員とだけ連絡をとっている 1人

C-5 その他コメント

- ① 現在、灌漑排水の分野から離れて民間のコンピューター関係の仕事をしているが、今後とも JICA とコンタクトをもって日本の進んだ知識を得たい。また日本を訪問したい。
 ② 研修は技術的な面だけでなく、日本人の行動様式等の勉強になる。
 ③ 灌漑排水コースのカリキュラムを再調整して、重要課題を深く勉強するようにすべきだ。
 ④ 農家への滞在を長くしていろいろの知識を得たい。

D. アフターケア事業について

D-1 灌漑関係の参考図書の送付

アフターケア事業の中で一番要望が強いのが参考図書類の送付である。灌漑に関する最新情報、新技術の紹介、あるいは、新たに作成された教材等の送付の希望が強い。また、現在送付しているつくばニュース研修員、ファーミングジャパン等の情報誌も継続して、十分な部数の送付を望む声が強かった。

さらに、帰国研修員センター的なものを運営し、その中に図書館的な機能をもたせてほしいとの意見もあった。

D-2 日本での再研修

農業土木分野の技術の進歩も早い。帰国研修員にとって技術レベルを維持し、さら

に現場での問題点を解決するためにも、日本で再研修をしたい希望が強い。短期あるいは個別のテーマ（水管理や畑地灌漑等のテーマの希望が多い）で問題意識をもって研修を行えば、効果の高い結果が得られよう。

D-3 資機材の供与

日本で習得した、技術、知識を帰国後活用しようとしても、機材の欠如、或は不備によってそれらが阻まれている場合が多い。ブラジルのように中進国でもちょっとした機材（測量機器、流連計、プランメーター等）が購入できないという。

当農業センターは、JICA 職員が直接研修に携わっており、帰国研修員とのつながりも強いので彼らが真に必要な機材の要望を受け、予算を確保し、供与する有効なシステムを作り、実行するのに最も適した立場にいると言える。

III. 技術セミナーの概要

灌漑排水の分野に関するわが国の技術情報を提供する目的で、ブラジル国において、JICA 帰国研修員同窓会、水利エネルギー局、フォローアップチーム共催で、公開技術セミナーを実施した。

1. 実施状況

実施日時：1989年1月27日(金) 13:30~18:30

場 所：ブラジル国 サンパウロ市

ニッケイパレスホテル 会議室

参加者：118名（添付資料参照）

備考：当初、セミナーは帰国研修員を対象に少人数で対話を中心に実施しようと考えていたが、JICA-OB 会の強い希望で、公開型のセミナーになった。

2. 講義内容

公開型の技術セミナーでは、当チームから3名とブラジル側から2名が講師となった。

講義内容と講師をプログラムの順に記すと次のようであった。

2. 1 日本の稲作と灌漑（金山）

日本の水稻栽培の歴史と最近の栽培技術および水田用水量を中心とした灌漑計画、また主要な水利構造物である頭首工の魚道等についてスライドを使用しての解説。

2. 2 ファブリダム（大沢）

ファブリダムは特殊合成ゴム引布製のチューブ状の袋を河川に取り付け、空気または水で膨張させ水を貯える簡単な可動堰の一つである。

ここではその概要と施工例についての解説

2. 3 ブラジルの灌漑事情（Dr. Dirceu D'Alkmin TELLES）

広大なブラジル国の農業開発、特に灌漑計画について数値を中心に解説。

（ポルトガル語）

2. 4 リモートセンシングの応用例（美馬）

最近、リモートセンシングの技術は各国で利用され始めているが、ここではインドネシアの JICA プロジェクトで実施されたリモートセンシング技術を利用した、農地開発評価システムへの応用例について解説。

2. 5 サンパウロ州の水資源開発計画 (Dr. Flávio Terra BARTH)

サンパウロ州はブラジルで最も開発の進んだ州である。今後も水の需要はますます増加すると思われる。サンパウロ州政府の水資源に関わる総合開発計画についての説明。

3. セミナーの評価と成果

フォローアップチーム側では当初帰国研修員及びその関係者を中心に30名程度の少人数のセミナーを予定していたが、JICA-OB会の会員が、セミナーをOB会の年間行事の一貫として企画され、118名出席の公開型セミナーのようになった。

参加者も大学の教授や地方公共団体や民間の技術者など幅広い分野からあった。フォローアップチームは英語で実施し通訳はつけなかった。ブラジル側の講師はポルトガル語で説明された。

スライドやOHP等は一応準備していたが、英文のテキストに加えポルトガル語の資料を用意しておけば、より効果があったと思われる。大部分の出席者が英語を理解できたらしく、ファブリダムやリモートセンシングについて質問が多くあったのは、それらについて興味があった証拠であろう。

また、ブラジル人同士で白熱した議論や質疑が繰り返し展開されたのは実にすばらしかった。OB会会員の通訳によれば、それらは技術的な話題ばかりでなく、かなり行政的な話にまで及んだということであった。

セミナーの内容や方法はともかくとしても、ブラジル国のサンパウロ州や各地の灌漑排水の技術者や関係者が一同に会する機会をつくるために、フォローアップチームが利用されたとしても大いに喜ばしいことであった。

IV. 当該研修コース（カリキュラム等）改善への具体的提言

1. 畑地灌漑に関する講義・実習の要望が強いし、その必要性は十分理解出来る。特に土壌の必要水分量に関する知識とそのため適切な水管理手法が灌漑技術者に要求される場合が多い。

圃場での蒸発散量、土壌水分量と灌漑手法との関係等も重要な課題となる。このため圃場実習に重点をおき、畑地水分量の測定方法や各種の畑地灌漑手法やその水管理に関する技術の研修の充実が望まれるところである。

2. ブラジルにあっては環境問題への関心が強く、大気汚染、アマゾンの自然破壊、地球規模の異常気象等の問題がある。灌漑排水の分野としては、農業用水の水質問題や水質の検査法等のカリキュラムの充実を検討したい。

3. ブラジルでは先端技術の実用化と現場での応用も進んでおり、コンピューター等の活用、最新工法による構造物の設計・施工、衛生情報の活用といった研修も重要な意味をもつと思われる。

4. ドミニカからの要望が強いが、ブラジルおよび他の途上国にも当てはまる問題として、研修員が帰国後、仕事をする上で、機材不足による困難が大きな障害となっている。

研修員にかかる機材供与システムの整備を進め必要機材が供与できる体制を整えることで大きな効果が得られると思われる。

5. スペイン語圏の場合、研修員の英語力の問題が大きい。灌漑排水・水管理に関するスペイン語の第3国研修の実施の要望も強く、効果的な研修となると考えられる。

また、農民指導者クラスの日本での水管理・農民組織に関する研修に対する要望も強いことから、国別特設コース的な形での研修実施も有効であろう。

V. 添付資料

1. 当該コースの概要

(1) コースの開設年及び開設の経緯

昭和43年度、稲作土地改良コースとして設立され、昭和45年度に土地改良コース、昭和49年度に灌漑排水コースと名称を変更してきた。その間研修参加国のニーズにあった研修を実施すべく、研修期間やカリキュラム等に改善が加えられ現在に至っている。

(2) 研修機関及び講師

ア. 研修機関

国際協力事業団 筑波国際農業研修センター

イ. 講師

○ 外来講師，農林水産省研究機関及び大学等

○ 国際協力事業団 筑波国際農業研修センター職員及び研修監理員

(3) 研修内容

月	講 義	実験, 実習, 報告等	見学, 研修旅行	月別合計	厚生行事, その他
2					オリエンテーション 日本語教育 14
3	世界の灌漑 2 計画諸元 2 気象観測 2 区画整理 4 土地改良事業 2 国営事業 1 水公園事業 1 暗渠排水 2 圃場整備事業 2	コンピューター 6 カントリーレポート 6	農業工学研究所 2 国営事業 2 県営事業 2 団体営事業 2	(8) 38	日本語教育 6
4	経済効果 4 ゲート, バルブ 2 測量学 2 農地造成 4	水文学演習 8 土 質 6 測 量 4	熱帯農業研究センター 2 国土地理院 2 東京地区 6	(10) 40	
5	水稻栽培 2	土 質 14 田植実習 2 測 量 6 水田用水量 6	利根用水系 10	(10) 40	田植祭り
6	用水計画 4 コンクリート 6 畑地灌漑 6	水 理 4 コンクリート 8	県営事業 2 ヒューム管工場 2 沖縄地区 10	(14) 42	スポーツ大会
7	水理ノモグラフ 2 排水計画 4 頭首工の設計 8 バイブライン 4 水 管 理 4	水理実験 6 コンクリート 2 レポート 2	東海地方 10	(10) 42	
8	地質工学 2 フィルタイプダム 6 流出解析 4 乾燥地農業 4	セミナー 4 河川測量 6 水 理 4 テ ス ト 4	地質調査所 2	(2) 34	JICA 創立記念日 夏期休暇 個別面接
9	農道設計 6 農業開発 2 ポンプ場設計 6 ポンプ工学 2 リモートセンシング 2	電気探査 4 CBR 4	リモートセンシング 2 北海道地区 10	(12) 38	スポーツ大会
10	傾斜地農業 4 JICA 事業 2	稲刈り 2 レポート 6 事例研究 10	ICID 東京会議 20	(26) 44	収穫祭
11		レポート 4 発表会 8 テスト 2	関西, 四国, 中国地方 10	(10) 24	親善パーティー 評価会
合計	110	136	94	340	

(注) 上記研修内容は、平成元年灌漑排水コース年間研修計画表より

(4) 国別帰国研修員数

地 域	国名	1-13	14	15	16	17	18	19	20	21	合計	合 計
		43-55	56	57	58	59	60	61	62	63		
ア ジ ア	バングラデッシュ	7			1			1	1		10	1. 昭和56年以降は内原 から筑波への移転後の 研修である。 2. *は短期受け入れの 研修員 (1) フィリピン 2名 昭和45年 ADB 及び FAO 資金による (2) ビルマ 2名 昭和55年度 (3) ブルネイ 1名 昭和58年度 9/21-9/22及び 9/26-10/1 (4) マレーシア 3名 昭和59年度 8/1-11/28 2名 10/15-10/19 1名 (5) インドネシア 2名 昭和60年度 8/26-8/31 1名 11/21-11/25 1名 (6) マリ 2名 昭和61年度 3/10-5/10 2名 (7) タイ 1名 昭和61年度 7/22-7/23 1名 (8) インドネシア 2名 昭和62年度 3/7-4/7 3. ()は早期帰国の 研修員 (1) ガーナ 1名 昭和44年度 病気 (2) タイ 1名 昭和58年度 7/12 家族の事故
	ブータン	1									1	
	ビルマ	2,2*	1			1			1	1	6	
	インド	7					1				8	
	インドネシア	29	1	1	1		2*		2*		32	
	ラオス	7									7	
	マレーシア	5	1		1	2,3*	1		1	1	12	
	ネパール	5	1			1			1		8	
	パキスタン	4	1	1			1				7	
	フィリピン	15,2*	1	2	2	1	1	1	1	1	25	
	スリ・ランカ	18	1			1	1		1		22	
タイ	11	1	2	1(1)	1	2	1*			18		
ブルネイ				1*								
カンボジア	2										2	
	小 計	113	8	6	6	7	7	2	6	3	158	
中 近 東	エジプト			1	1	1	1	2		1	7	
	イラン	8		1			1				11	
	イラク	4	1						1		5	
	モロッコ								1		1	
	スーダン	1		1	1	1		1			5	
	シリア		1		1				1		3	
	テュニジア									1	1	
	トルコ	1									1	
	アフガニスタン	2									2	
		小 計	16	2	3	3	2	2	3	3	2	36
ア フ リ カ	中央アフリカ									1	1	
	エチオピア				1			1		1	3	
	ガボン		1								1	
	ガーナ	1(1)					1				2	
	リベリア	3									3	
	マリ				1	1		1,2*	1	1	5	
	ナリジェリア	3									3	
	シェラ・レオーネ				1						1	
	タンザニア	2	2	1			1	1	1	1	9	
ウガンダ	1									1		
	小 計	10	3	1	3	1	2	3	2	4	29	
中 南 米	ボリビア					1		1		1	3	
	ブラジル	3		1	1	1	1	2	1		10	
	ドミニカ共和国	1		1	1	1	1	1	1		7	
	ホンジュラス									1	1	
	メキシコ	1									1	
	ニカラグア									1	1	
	ペルー									1	1	
	トリニダード・トバゴ	1									1	
	小 計	6	0	2	2	3	2	4	2	4	25	
	合 計	145	13	12	14	13	13	12	13	13	248	41ヶ国

(5) コース終了時のエバリュエーション集計結果

項 目	内 容	集計 (%)
1. Subjects	Coverage too broad	5 (38)
	Coverage just right	7 (54)
	Coverage incomplete	1 (8)
2. Level	Too advanced	1 (8)
	Just right	8 (62)
	Too elementary	4 (31)
3. Clarity of lectures	Very clear	1 (8)
	Adequate	11 (85)
	Difficult to follow	1 (8)
4. Treatment	Not enough practical	4 (31)
	Just right	8 (62)
	Not enough theoretical	1 (8)
5. Duration	Too short	0 (0)
	Just right	8 (62)
	Too long	5 (38)
6. Others	Language problems	3 (23) *
	Background of participants too diversified	6 (46) *
	Little applicability	3 (23) *

(* 無解答・複数解答有り)

注. 上記集計結果は昭和63年(昭和63年2月~昭和63年11月)の研修員のエバリュエーション集計結果

2. Questionnaire

Dear Sir,

I am writing to you with the hope that you are actively engaged in your work in excellent health and in high spirits since you returned to your country after training in Japan.

It is a pleasure for me to inform you that the Japan International Cooperation Agency is doing utmost efforts to expand and improve its technical training program year after year. We have accepted a total of 62,442 participants from developing countries during the period of 1954 - March 1987. In fiscal 1988, We plan to accept more than 4,700 participants and conduct around 250 group training courses and seminars.

In programming future training course, we endeavor to place emphasis not only on increasing the number of participants to meet the augmenting requests from developing countries but also on improving the quality of training programs.

For this purpose we would like to know how and to what extent the ex-participants in our training courses are making use of knowledge and technology acquired in Japan and to hear what suggestion and recommendation they have for the betterment of our courses.

It is also important to brush-up and up-grade what you learned in Japan. Therefore, JICA dispatches technical follow-up team to participating countries every year to provide you with information on latest developments in your field of activity.

This year JICA has decided to send to your country a followup team in the field of your expertise. Details of its schedule and the questionnaire are enclosed herewith.

We shall be grateful if you could extend your kind cooperation to our visiting team during its stay in your country.

We are really looking forward to seeing you.

Yours sincerely,

I) Follow-up Team for Ex-participants

- a. Objective : Follow-up team will visit ex-participants' and related organs for the purpose of evaluating the results of training in Japan and assessing problems and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training program.
- b. Period : From 23rd January to 8th February, 1989 For details, please refer to the tentative schedule (Appendix-3) attached hereto.
- c. Members : 1. Shiro KANAYAMA
Chief Instructor : Irrigation and Drainage Course
Tsukuba International Agricultural Training Centre, JICA
2. Kyojin MIMA
Instructor : ditto
3. Hideo OSAWA
Instructor : ditto

II) Requests

- a. You are kindly requested to prepare a short report according to the questionnaire (Appendix-1) and hand it to the team. In case you cannot meet the team, please ask your friend to convey it to the team or send it to the following address so that your report may reach the follow-up team.

[Brazil] (Sao Paulo, Belo Horizonte and its suburbs)
ESCRITORIO ANEXO DO CONSULADO GERAL DO JAPAO EM SAO
PAULO
Rua Sao Joaquim, 381-6 Andar, Liberdade, Sao Paulo, Estado de Sao Paulo,
Brasil
CEP 01508 TEL 011-279-6577

(Brasilia)
EMBAIXADA DO JAPAO
Avenida das Nacoes, Lote 39, Brasilia, DF., Brasil
(Caixa Postal 07-0891, Brasilia, DF., Brasil)
CEP 70425 TEL 061-244-8410, 243-4484

[Dominica] AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Apartado
No. 1163, Santo Domingo, Republica Dominicana
TEL 682-9635, 682-4703

- b. We would like visit some organizations in your country according to the schedule. The appointment of the meeting will be arranged through the JICA Office.

QUESTIONNAIRE

To the Ex-participants of the
Irrigation and Drainage Course

We will appreciate greatly your cooperation in answering the following questions to help us effectuate the visit. (Kindly please write in block letter or typewrite.)

I. General question

1. Full name : _____

2. Year of your participation : _____

3. Name of the organization you belong to now : _____

4. Your position : _____

5. Office address : _____

Tel: _____

6. Home address : _____

Tel: _____

7. Employment record :

Duration of service	Position	Organization

8. If you have participated in another training, please mention it.

Duration of training	Name of Institution	Objective of the Training

II. Question on your present job.

1. Please describe the work of your organization.
2. Please give a brief description of your duties in the present job.
3. What do you consider to be the most important obstacles in the performance of your present job?

Lack of:

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> Trained personnel | <input type="checkbox"/> Equipment |
| <input type="checkbox"/> Funds | <input type="checkbox"/> Support of supervisor |
| <input type="checkbox"/> Foreign experts | <input type="checkbox"/> Career of perspective |
| <input type="checkbox"/> Technical literatures | <input type="checkbox"/> Research facilities |
| <input type="checkbox"/> Water resources | <input type="checkbox"/> Planning and design criteria |
| <input type="checkbox"/> Transport facility | <input type="checkbox"/> Government policy for the sector |
| <input type="checkbox"/> Others : | |
-

Various constraints :

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> Economic situation | <input type="checkbox"/> Political situation |
| <input type="checkbox"/> Too much foreign influence | <input type="checkbox"/> Energy crises |
| <input type="checkbox"/> Poor management | <input type="checkbox"/> Poor operation & maintenance of equipments |
| <input type="checkbox"/> Others : | |
-

4. What is the most serious problem in the field of irrigation & drainage in your country?

(4-a) National level

(4-b) Your office level

(4-c) Personally

5. What is the countermeasure you or your office took?

III. Question on the course you attended

1. To what extent had the training program achieved to your initial expectations?

- Completely
- Highly
- Somewhat
- Hardly
- Not at all

Comments : _____

2. To what extent can you apply the knowledge/skills acquired during the training in your present job?

- All
- Most
- Some
- A little
- None

Comments : _____

3. To what extent did the training you attended contribute to the personal improvements?

- A lot
- Somewhat
- Not at all

If there are, how are they helpful?

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> Work condition | <input type="checkbox"/> Obtaining better job |
| <input type="checkbox"/> Responsibility | <input type="checkbox"/> Professional recognition |
| <input type="checkbox"/> Salary-wise | <input type="checkbox"/> International contacts |
| <input type="checkbox"/> Prospects for the future | <input type="checkbox"/> Others |

Comments :

4. What are the Two most useful and applicable subjects which you learned from the Course?
Why? (please refer to the Training Programme in 1988:Appendix-2)

(a) _____

(b) _____

Comments: _____

5. If you want to add Two subject to the Course, what would they be?

(a) _____

(b) _____

Comments: _____

6. Do you have any proposal or suggestion for the improvement of the course in future?

IV. Question on the follow-up activities

1. What kind of follow-up activity from JICA have you gotton so far?

i. Receiving literature or technical information

Tsukuba-news Kenshu-in Farming in Japan

Technical Refference Book (_____)

ii. Others

2. What kind of follow-up activities of the course do you request?

Please tick off the appropriate items and describe the concrete idea of the request.

Sending literature and technical information (_____)
_____)

Technical consultation (_____)
_____)

Retraining or re-fresher training (_____)
_____)

Others, if any (Equipment or facility, Dispatching Japanese Expert and so on)

(_____

_____)

V. Question on the friend-ship activities among the ex-participants

1. Do you have an alumini association in your country?

2. What kind of activities do you have every year?

3. Do you have any sort of contact with other ex-participants of the same course in and out of your country?

VI. Any other comments

Training Programme (Irrigation & Drainage Course 1988)

APPENDIX-2

	Lecture	Practice	Observation & Study Tour	Remarks
February				Opening Ceremony (Feb. 19) Orientation
March	Irrigation in the world Meteorology Organization of Land Improvement Works Farm Land Consolidation Government-operated Works Water Resources Development Public Corporation Planning Block Reformation	Hydrology	National Research Institute of Agricultural Engineering Government-operated Works Prefecture-operated Works Public Works Research Institute TOKYO District	Japanese Language Country Report
April	Economic Evaluation Japanese Culture Surveying in general Land Clearing Irrigation & Drainage in Japan	Hydrology Software Programming Surveying Soil Test	Organization-operated Works Geographical Survey Institute	
May	Rice Cultivation in Japan Upland Field Irrigation Irrigation Planning Drainage Planning Pump Engineering Design of Pump Station	Pump Efficiency Concrete Test	Tone River Basin Development	Rice Planting Festival
June	Design of Pump Station Concrete Engineering Reinforced Concrete Hydraulic Nomograph design of Headworks	Hydraulic Test Concrete Test	Pump Station Concrete Factory Headworks OKINAWA District (Underground Dam)	Sports Match
July	Design of Pipeline Land Improvement District Agricultural Co-operative Society Rural Planning Fill-type Dam	River Survey Soil Test	Fill-type Dam TOKAI District	Evaluation Test
August	Water Management River Survey Hydraulic Structure Farm Road Design	Soil Test Field Practice Hydraulic Test. Electric Detection Construction Equipments Surveying	Triangulation Point HOKKAIDO District	Anniversary of Founding of JICA Summer Vacation Sports Match Personal Interview Seminar
September	Design of Farm-road Bridge Underdrainage Remote Sensing Geology	Rice Harvesting Soil Test Report Making	Remote Sensing Institute Geological Survey Institute	
October	Arid Land Farming Swamp Development Sloping Land Agriculture Gate & Valve ADB Projects JICA Activities	Report Making	HOKURIKU District	
November			KANSAI-CHUGOKU District	International Good-will Party Technical Report Evaluation Test Personal Interview Closing Ceremony

Appendix-3

Schedule of Follow up Team

No	Date	Schedule	Lodging
1	January 23 (Mon)	From Tokyo (19:20) by RG 833	on Board
2	24 (Tue)	To Sao Paulo (8:50) by RG 833 Visit JICA Office Visit Consulate of Japan	Sao Paulo
3	25 (Wed)	Courtesy Call to Departamento de Aguas e Energia Eletrica (DAEE) Meet Ex-participants	Do
4	26 (Thu)	Courtesy Call to Sao Paulo State University (UNESP) Meet Ex-participants	Do
5	27 (Fri)	Seminar Visit JICA Office	Do
6	28 (Sat)	Report Making	Do
7	29 (Sun)	From Sao Paulo (13:30) to Brasilia (14:55) by TR 564	Brasilia
8	30 (Mon)	Visit JICA Office Visit Embassy of Japan Courtesy Call to Ministry of Irrigation	Do
9	31 (Tue)	Meet Ex-participants See Project Sights	Do
10	February 1 (Wed)	Visit JICA Office From Brasilia (21:30) by VP 033	on Board
11	2 (Thu)	To Santo Domingo (10:40) by VP 033, VA 943 And VA 970 Visit JICA Office Visit Embassy of Japan	Santo Domingo
12	3 (Fri)	Courtesy Call to National Institute of Hydraulic Resources Meet Ex-participants	Do
13	4 (Sat)	See Project Sights	Do
14	5 (Sun)	Report Making	Do
15	6 (Mon)	Visit JICA Office From Santo Domingo (13:15) to New York (15:54) by AA 588	New York
16	7 (Tue)	From New York (12:30) by JL 005	on Board
17	8 (Wed)	To Tokyo (16:35) by JL 005	

3. 研修候補者の募集・選考状況

No	応募国	応募者数	受入数	備考
1	ユーゴスラヴィア	1	0	
2	ギニア・ビサオ	1	0	
3	中国	1	0	
4	エチオピア	2	1	
5	エジプト	5	1	
6	ニカラグア	1	0	
7	インド	2	1	
8	タンザニア	3	2	カウンターパート 1名
9	ペルー	1	1	
10	ブラジル	1	1	
11	イラン	1	1	
12	フィリピン	4	3	カウンターパート 2名
13	ネパール	1	1	
14	スリランカ	1	1	カウンターパート 1名
15	マリ	1	1	
16	ナイジェリア	1	0	
	合計	27	14	

(注) 上記募集・選考状況は平成元年1月

4. 報道内容

フォローアップチームに関する新聞報道等は特になし。

5. セミナー関係資料

(1) セミナー日程

Associação dos Bolsistas-Tica-São Paulo

SEMINÁRIO BRASIL-JAPÃO DE IRRIGAÇÃO E DRENAGEM

Local : Auditório do Nikkey Palace Hotel

Rua Galvão Bueno, 425-Liberdade-São Paulo-SP

Data : 27 de janeiro de 1989

Horário e Programa :

13 : 30-14 : 00 Abertura

14 : 00-14 : 45 "Tecnologia de Irrigação no Japão"

Eng^o Shiro KANAYAMA-Diretor Adjunto do Centro de Treinamento de Agricultura de Tsukuba-Japão

14 : 45-15 : 15 "FABRIDAM"-um novo tipo de barragem Eng^o Hideo OSAWA-Professor do Centro de Treinamento de Agricultura de Tsukuba-Japão

15 : 15-16 : 00 "A Irrigação no Brasil"

Dr. Dirceu D' Alkmin TELLES

Diretor Estadual da ABID-SP

16 : 00-16 : 15 Intervalo para café

16 : 15-17 : 00 "Avaliação dos recursos hídricos para o desenvolvimento da agricultura auxiliada por sistema de sensoriamento remoto e de informações geográficas"

Eng^o Kyojin MIMA-Professor do Centro de Treinamento de Agricultura de Tsukuba-Japão

17 : 00-17 : 45 "Gestão de Recursos Hídricos"

Dr. Flávio Terra BARTH-Coordenador do Plano Estadual de Recursos Hídricos-DAEE-São Paulo

17 : 45-18 : 30 Debates

19 : 00 Coquetel (11^o andar)

Observação : As palestras dos técnicos japoneses serão em inglês.

(2) セミナー参加者リスト

NAME	EMPRESA	GARGO
01. Margarita Maria Lopez Gil	EPUSP	Estudante
02. Paulo Cesar Molina	Themag Engenharia	Enº Agr.
03. Nino C. T. Françoso	Themag Engenharia	Assessor
04. Christovão Modena F. Bueno	Hidrovarzea	Gerente
05. Yuiti Fushiguro	DAEE	Engenheiro
06. Mario Omori	SABESP	Engenheiro
07. João Carlos de Freitas Silva	DAEE	Engº Agr.
08. Katsuzo Yamamoto	CDAC	Dir. Pres.
09. Oscar Takatoshi Hirayama	DAEE	Engenheiro
10. Minoru Matsunaga	Secretaria da Agricultura	Assessor
11. Gilberto Moura Valle Filho	DAEE	Engenheiro
12. Julio Satto	Unicamp	Professor
13. Edson Eiji Matsuura	FEAGRI-Universidade Campinas	Prof. Assis.
14. Roberto Testezlaf	Unicamp	Prof. Assis.
15. Mario Kazunori	Themag Engenharia	Engº Asses.
16. Jose Antonio Somaglio Albino	IPT	Engº Agron.
17. Amelice Barreira Martins Dias	DNAEE/MME	Engenheira
18. Jose Wellington Dantas	Tupy Tubos e Conexões	Gerente
19. Helio Yamamoto	CAC	Gerente
20. Patricia Zanaga Camargo Neves	UNESP	Estudante
21. Paulo Roberto Aguiar	Geosint Engº Associados	
22. Valter Gonçalves	DNAEE	Engenheiro
23. Carlos Morato Gagliardi	-	Engº Agr.
24. Carlos Deblois	DAEE	Engº Civil
25. roberto Longaray Jaeger	Inst. Rio-Grandense do Arroz	Engº Agr.
26. João Antonio Galbiati	Unesp	Prof. Doutor
27. Jairo Augusto Campos de Araujo	Unesp	Prof. Univ.
28. Jolinda Izumi Sakaguti	Escola Superior de Agr. Lavras	Estudante
29. Alessandro Fenyves Filho	Promon Engenharia	Msc Eng.
30. Carlos Alberto de Luca	CATI	Assistente
31. Sergio Basílio Moreira de Barros	CATI	Engº Agron.

32. Moisés Vaxman	Politeno	Eng ^o Agron
33. Ankarin Aurelia K. Silva	USP	Professora
34. Jaiyel Oliveira	.	Autônomo
35. Shigetomu Yemura	Ind. Com. Máquinas Yemura	Diretor
36. Jose Emgydio de Vasconcelos	DAEE/CTH	Eng ^o
37. Otavio Matsumoto	CENA	Técnico
38. Iria Fernandes Vendrame	ITA/CTA	Prof. Ass.
39. Luis Carlos Miya	DAEE	Engenheiro
40. petronio Campos de Oliveira	ESALQ	Agrônomo
41. Rosa Helena de Oliveira Martins	Cetesb	Gerente
42. Sunao Assae	CNEC	Chefe
43. Nelson Tsuzuki Yamaga	Cons. Nac. Eng ^o Consultores	Engenheiro
44. Iosio Yamamura	Sanasa	Diretor
45. Mitio Sakae	Sanasa	Chefe
46. Paulo Matsuo	Iag	Técnico
47. Souji Gozi	DAEE	Diretor
48. Yumiko Marina Tanaka Anunciação	UNESP	Meteorol.
49. Hiroaki Makibara	DAEE	Eng ^o Civil
50. Kuyoshi Ishisaki	Setepla	Engenheiro
51. Paulo Cesar Centelhas	Unesp	Eng ^o Agr.
52. José Roberto Siqueira	Themag Engenharia	Tecnólogo
53. Gilberto Kneif	Maubertec Engenharia	Chefe
54. Pedro Yoichi Shimomichi	Instituto Florestal	Meteorol.
55. Francisco Carlos Soriano Arcova	Instituto Florestal	Eng ^o Flor.
56. Kikuko Abe	DAEE/CTH	Assistente
57. Jose Mauricio Leone A. C. Castro	.	Eng ^o Agron.
58. Dyuzo Nishioka	Themag Engenharia	Chefe
59. Gert Wolfgang Kaminski	Sabesp	Chefe
60. Noboru Minei	DAEE/CTH	Eng ^o Civil
61. Alberto Carlos Kaminski	Tupy Tubos e Conexões	Geólogo
62. Jose Celso Reis de Vasconcelos	Sanag	Diretor
63. Valter Hernandez	Hidroservice	Chefe
64. Marcos Pitanguy	Santa Barbara Engenharia	Gerente

65. Kokei Uehara	USP	Pref. Tit.
66. Bráulio Nogueira Neto	Brasilit	Assessor
67. Norma Bráulio	Hidroservice	Engenheira
68. Adriana Mendes Nogueira	Hidroservice	Engenheira
69. Claudio Tomazelo	Esalq	Estudante
70. Jesus Marden dos Santos	INPE	Pesquisador
71. Renato Angelo Ferro	Fazenda Ouro Verde	Diretor
72. Jose Carvalho de Moraes	INPE	Bolsista
73. Makoto Nomura	DAEE	Engenheiro
74. Jussara Gracinda Dal Moro	Themag	Engenheiro
75. Jose Roberto dos Santos Vieira	Themag	Engenheiro
76. Henriete Macedo	DAEE	Engenheira
77. Luis Carlos B. Molion	IMPE	Pesquisador
78. Antonio Fernando L. Olitta	ESALQ	Professor
79. Marcos Vinicius Folegatti	Esalq	Professor
80. Rubens Duarte Coelho	Esalq	Técnico
81. Jose Antonio Frizzone	Esalq	Professor
82. Paulo Mathias Duarte	Irrigação Paraná	Engenheiro
83. Mamoru Fujiwara	Instituto Agronômico	Pesquisador
84. Flavio Bussmeyer Arruda	Instituto Agronômico	Diretor
85. Emilio Sakai	IAC	Pesquisador
86. Afonso Celso Santos Pantoja	Banco do Nordeste do Brasil	Diretor
87. Francisco Rodrigues Nogueira	Banco do Nordeste do Brasil	-
88. Teturo Sakamoto	CONVAP	Engenheiro
89. Ademar Tokio Ogawa	DAEE	Assistente
90. Junzo Inoue	CETESB	Tecnólogo
91. Silvio Nakahira	CETESB	Engenheiro
92. Joaquim Curt Lewkowitz	Ferroverde	Gerente
93. Nestor Soares Tupinamba	Metrô	Coordenador
94. Ana Lucia Meira	Metrô	Analista
95. Jose Roberto Serra	Isratec	Técnico
96. Francisco Parente Carvalho	CPRM	Engenheiro
97. Filip Rosenstein	DECTRON	Engenheiro

98. Odilon Gontjo de Andrade	Norma Estruturas	Gerente
99. Urânia Gonçalves Rodrigues	DNAEE	Engenheiro
100. Maria Rita Palmeziano	DNAEE	Engenheiro
101. Queico Kihara	DNAEE	Engenheira
102. Fabio Menzel de Arruda	CPFL	Engenheiro
103. Ari Jean Veltmeyer	Kactus	Gerente
104. Tasso Richlin da Rocha Loures	DERSA	Engenheiro
105. Aldo da Cunha Rebouças	CEPAG	Diretor
106. Itiro Ayabe Eliseu	DAEE	Engenheiro
107. Sebastião Vainer Bosquilia	DAEE	Diretor
108. Hideaki Ussami	Themag	Gerente
109. Kikuo Tamada	DAEE	Diretor
110. Miriam Aranovich		
111. Miguel Antonio Cinquini	Metalúrgica Barbará	Assistente
112. Walter Antonio Becari	DAEE	Diretor
113. Paulo Takashi Nakayama	CTH/DAEE	Eng ^o Civil
114. Miguel Fumikasu Kato	IPT	Secretário
115. 南野 肇	在サンパウロ総領事館	領事
116. 北村 孝	JICA サンパウロ事務所	所長
117. 土生 幹夫	"	農業情報室長
118. 佐々木 弘一	"	職員

(3) サーティフィケート

セミナー参加者には、下記のようなサーティフィケートが与えられた。



6. サンパウロ同窓会概要

Form 1

Report on the activities of Alumni Association in 1987

Date : April 1988

Name of Association	ASSOCIAÇÃO DOS BOLSISTAS JICA-SÃO PAULO (ABJICA-SP)		
Address	Rua São Joaquim, 381-6º andar-Liberdade CEP 01508 São Paulo-SP-Brasil		
Name of President and his cupation	Alberto Tomita (Lawyer) (Director of ANFAVEA-National Association of Automotive and Vehicles Manufacture).		
Number of members	861 (march/88)	Number of ex-participants among the members	861
Main activities from 1987, Apr. to 1988, Mar.			number of attendants
	1. 5th general meeting (May)		(165)
	2. 1st Symposium Brasil-Japan on Environment (November)		(275)
	3. Follow-up of JICA's ex-participants		(65)
	4. Orientation for JICA training Participants		(36)
	5. Seminars (University and Research Institute) (4)		(60)
Plan of future activities	6. Logistical support for experts See Annex 1		(17)
Hope and suggesttions to JICA	See Annex 2		

Note : This report will be an important material for JICA to know your activities, so please write it in detail.
Typing is preferable.

ANNEX 1

ACTIVITIES FOR 1988/1989

I - Technical and Cultural Events

1 - Seminars:

a) With experts that stay in São Paulo State

- Instituto de Pesquisas Tecnológicas-Tokuci Watanabe
- Centro Tecnológico Hidráulica-Massahisa Matsuda
- Instituto Nacional Pesquisas Espaciais-E. Terauchi
- Universidade Estadual de Campinas-Hideo Iwasaki

b) With JICA's training program participants

c) With University's professor and similar associations

d) Others

2 - Symposium

- Traffic safety
- Research Institutes organization/activities

3 - JICA training participants counseling

4 - Attending for:

- JICA's mission visits for São Paulo State
- JICA's experts

5 - Cooperation with JICA-São Paulo office for technical cooperation process.

6 - Preparation of "Kenshu-in São Paulo" - JICA alumni Bulletin

7 - ABJICA-section in others cities of São Paulo State for preparation Alumni activities.

Associação dos Bolsistas-Tica-São Paulo

ANNEX 2

We would hope that JICA-Tokyo could help us to organize our activities during 1988/1989:

- 1 - Becoming available of the japanese experts sending previously to us all the accompanying informations concerning to them, in roller to facilitate the related program.
- 2 - Organization of São Paulo-JICA Alumni Data Bank providing us with microcomputer for substitute IPT's computer.
- 3 - Information of JICA's training course program for diffusion by São Paulo JICA Association Bulletin.
- 4 - Subsidy and sending experts for "Traffic Safety Symposium".

7. ドミニカ共和国同窓会概要

ALUMNI ASSOCIATION OF DOMINICAN REPUBLIC

NAME OF THE ASSOCIATION	DOMINICAN EX-BECARIOS ASSOCIATION OF JAPAN		
DATE OF ESTABLISHMENT	OCTOBER 25TH, 1982		
ADDRESS	BOLIVAR AV. # 818, POST OFFICE No. 912-2 JICA'S OFFICE, IN THE DOMINICAN REPUBLIC, SANTO DOMINGO		
NAME OF THE CHAIRMAN	ING. JUAN RAMON URIBE PICHIRILO	NAME AND YEAR OF THE COURSE ATTENDED	METROLOGY AND MEASUREMENT STANDARD (1983)
NUMBER OF MEMBERS	200	NUMBER OF JICA EX-PARTICIPANTS AMONG MEMBERS	180
MAIN ACTIVITIES INCLUDING MESSAGE TO OTHER ASSOCIATION	<p>The Association was founded on October 25th 1982. All of ex-participants in any case of fellowship to Japan can be members of our Association, it is to say:</p> <p>Ex-participants of programs of Jica, ministry of education of Japan and scholars financed by private companies.</p> <p>The Principal objective of the Association is to maintain friendly relationship between their members, maintain contact with Jica for exchanging information and materials and contribute to the development of the friendly ties of the cooperation existent in many areas between Japan and the Dominican Republic.</p> <p>For carry out the above mentioned purpose the Association proposes itself the realization of the following activities-</p> <ul style="list-style-type: none"> -General Assembly -National Ex-scholarship confraternity party -Dominican-Japanese friendship Party -Japanese Cultural Week -Conferences of cultural and Scientific character -Bulleition Edition (each three months) -Orientation meeting to the prospective participants of Jica before their departure to Japan 		

- Please write in English.
- This information will be compiled in a pamphlet which will be distributed to all the alumni associations. So please introduce your association and its activities so as to make this pamphlet a good reference for the future activities of other associations.

8. 持ち帰り資料一覧

(1) ブラジル

1. INTERIOR O DAEE, as suas ordens
2. RELATÓRIO DE ATIVIDADES 1987~1988, DAEE
3. ÁGUAS E ENERGIA ELÉTRICA, DAEE
4. ÁGUAS E ENERGIA ELETRICA, PROJETO TIETÉ, DAEE
5. CENTRO TECNOLÓGICO DE HIDRÁULICA
6. UNESP (UNIVERSIDADE ESTADUAL PAULISTA)
7. LISTAGEM DOS PARTICIPANTES NO
TREINAMENTO NO JAPÃO, JICA-SÃO PAULO
8. ブラジルの農業概要, 在ブラジル日本国大使館
9. ブラジル事務所業務概要
10. THE NATIONAL IRRIGATION PROGRAM
11. The new colors of the Brazilian Agricoltore
12. MAPA SÃO PAULO RODOVIARIO
13. Projeto de Colonização Paracatu-Entre Ribeiros
14. Jaiña primeira estapa
15. Circular Técnica, Irrigação do Feijoeiro
16. ブラジル国立野菜研究所 (CNPH)

(2) ドミニカ共和国

1. ドミニカ共和国 水利庁組織図
2. ドミニカ共和国 青年海外協力隊派遣図
3. エルボソ灌漑工事概要
4. MAPA HIDROGRAFICO CON PRESAS, CUENCAS Y SUBCUENCAS PRINCIPALES

JICA